

未来の子どもたちに残したいマチへ マチごとエコタウン所沢

第33号



環境会報

所沢市環境推進員連絡協議会

持続可能性を高める小さな一歩 SDGs先進度調査 環境部門で全国1位

所沢市環境推進員連絡協議会 会長 毛利 吉成

環境推進員の皆様におかれましては、所沢市が目指す環境保全に向けての諸展開に関心と理解を深める地域活動の環境リーダーとして研鑽、ご活躍をいただいております。敬意を表する次第です。

8年前の東日本大震災の強烈な経験は強く心に刻まれ、これまでの便利さや快適さを追求してきた生き方の反省から“**動こう所沢**”“**つむごう絆**”をキャッチフレーズに「人と人が支え合い、人と自然が共にある地球にやさしい生活環境」と未来の子どもにつないでいく新たな価値観に基づいた「マチごとエコタウン所沢構想」が構築され「エネルギー」、「みどり」、「資源循環」の分野で推進中です。

「エコタウン」をみんなで築いていくための道しるべとする構想です。この取り組みに日本経済新聞は、国連が採択した「持続可能な開発目標（SDGs）」の観点から全国815市区を評価し環境対策や交通政策など都市の持続可能性を意識した取り組みについて調査、ランキングをまとめました。この内、回答のあった658市区からの「**環境部門**」で所沢市は、**見事、持続可能都市ランキングで全国1位の評価**がされました。

「マチごとエコタウン構想」の諸展開が原動力となって高く評価されたことと思います。ラン

キングをまとめた日本経済新聞は、「地球温暖化対策といった大きなテーマは、一つの自治体で対応するのは、限界がある。それでも世界規模のテーマを“自分事”と認識し再生可能エネの活用などに取り組むことは、地球の**持続可能性を高める小さな一歩となる**」と。「持続可能都市への挑戦」と期待を込めたメッセージで結んでいます。（1月23日日経 一部抜粋）



今年度は、“もったいない”の言葉をそれぞれが形にしていく努力をした年でもありました。そのひとつに「都市鉱山からつくるメダルプロジェクト」は、平成29年4月から取り組んできましたが3月末を持って終了となりました。おかげさまで、3月14日現在、小型家電は、20,020個分、金メダル7個、銅メダル354個分に相当するそうです。（計算上）

今、プラスチックによる海洋汚染、食物連鎖の危機など大きな問題となっています。「他人事」としない取り組みなど、より密な「絆」を紡いでいくのも「善きふるさと所沢」の住人としての責務と思っております。環境推進員としてさらなるご理解とご協力をお願いする次第です。

平成31年度 「環境美化の日」の日程

生活環境課

春の「環境美化の日」 平成31年 5月26日（日曜日）
秋の「環境美化の日」 平成31年 11月10日（日曜日）

— 皆様のご協力をよろしく申し上げます！ —



所沢市はマチごと、プラスチックごみ削減に
取り組むことを宣言しました

「全国市区サステナブル度・SDGs先進度調査」 環境部門 所沢市が全国1位に

環境政策課

平成31年1月7日発行の日経グローバル誌において、日本経済新聞社産業地域研究所が全国815市区を対象に実施した標記調査結果について発表がありました。この調査は、経済・社会・環境の3側面からの各指標を得点化し、ランキングしたもので、本市におきましては、総得点100点中60.5点で総合ランキング47位、県内順位3位となりました。

特に、環境分野における評価が全国1位と大変高かった要因としては、太陽光発電システム、蓄電池システム、太陽光温水器、高効率給湯器など多様な創エネ・省エネ・蓄エネ機器の市民・事業者への補助事業や、電気自動車などの次世代自動車の普及事業の実施のほか、地域の開発にあたり、街づくり条例で独自の基準を設定していることなどが挙げられております。

環境分野で高い評価を受けたことは、日頃より環境推進員の方々をはじめとする、市民の方々のご活動やご協力の賜物と認識しており、大変喜ばしく感じているところでございます。

今後も、マチごとエコタウン所沢構想が掲げ

る「“人と人”、“人と自然”との絆で、未来と子どもを育む 所沢」の実現に向けて、環境施策を皆様と共に着実に一步一步前進させてまいりたいと考えておりますので、引き続き、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

SDGsとは：Sustainable Development Goalsの略。2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための2030年までの国際目標。17のゴールが定められ、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。



生ごみ減量・資源化講演会 生ごみ減量の啓発意識は、子どもから

リサイクルふれあい館

平成31年1月29日（火）の午後2時より新所沢まちづくりセンターにおいて、新所沢地区環境推進員協議会のご協力によりリサイクルふれあい館主催の生ごみ減量・資源化講演会を開催いたしました。はじめに「所沢市のごみの現状」についてリサイクルふれあい館職員から、続いて「生ごみカラットの使用方法」について生ごみ減量・資源化アドバイザーである菊一敦子先生からパワーポイントを使用してそれぞれ解説をした後に「生ごみ減量化・資源化推進奨励金交付申請」についてリサイクルふれあい館職員から説明をいたしました。毎回女性の参加者が圧倒的に多いのですが、今回の講演会は、56名のうち22名の多くの男性にも参加していただきました。講演会終了後に質疑応答の時

間を設けまして、ごみに関する疑問や各生ごみ処理の使用方法の質問等が活発にあり、ごみに対して真摯な姿勢で取り組んでいることを実感しました。また、「子どもの時に意識づけ出来るような子どもへの講演会があると良い。」とのアンケートもあり、改めて、新所沢地区の住民の方の意識の高さに感心しました。

今後とも引き続き生ごみの減量・資源化について市民への意識啓発に取り組んでまいります。



所沢市環境推進員連絡協議会視察研修会に参加して

山口地区 新居 亨一

平成30年度の視察研修（11月6日～7日）では、所沢市で排出されるごみの行方を知るため、山形県米沢市にあるジークライト株式会社のエコポート最終処分場を訪問しました。

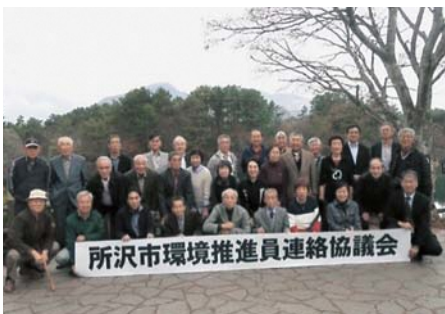
エコポート最終処分場は山形県と福島県の県境に近い山の中にあります。

ここを訪れて初めに

驚いたのは、眼前に広がる圧倒的な規模の大きさです。右写真の中央に見えるのは10トン前後の大きなごみ運搬車と思われそうですが、ここではおもちゃのミニカーのように小さく見えました。

現在の埋め立て総容量は、これまでに埋め立てた分も含めて412万㎡（東京ドームの体積の3.3倍）で、これが満杯になるのは今から30年後とのことでした。

悪臭を感じないことも予想外でした。多層の



遮水構造と3段階の浸水処理による浸出水対策が講じられており、操業開始以来20年間、問題は起きていないそうです。

現在、所沢市にはごみの最終処分場がないので、最終焼却灰はここ米沢市と草津町、寄居町の3か所で埋め立てられます。所沢市が1年間に排出する最終焼却灰は約2,500トン、そのうちの約1,000トンが400km離れたこの地で埋め立てられています。



今回の研修は、このように立派な最終処分場が受け入れてくれるからといって、自分たちが出したごみを他の土地に捨てても良いのかということを考える良い機会となり、やはりごみ減量の努力と工夫をしなければならないということに再認識しました。

環境講演会 娘の雑木林はどこにあるのか

環境ナビゲーター 上田 マリノ（所沢市まちエコ大使）



「武蔵野学がはじまる」と題して地域学から武蔵野を観るという内容で、聴講者が武蔵野台地の自然、雑木林について思いを巡らせるようなご講演でした。国木田独歩氏の『武蔵野』によると、かつては武蔵野の風景が新宿・渋谷辺りに広がっていたそうです。その後、武蔵野の風景は都市開発とともに国分寺の方へ移り、そしてさらに西へ。現在は所沢周辺にあるとのことでした。

私は松井・柳瀬地区で生まれ育ちました。小さい頃から住まいの周りに雑木林がないので雑木林は身近な存在ではなく、車で見に行く存在です。ですが幸いなことに公園が多い地域なので、虫取りも木登りもしましたし、花の蜜を吸ってみたり落ち葉に埋もれたり、自然とのふれあいは多かったように思います。

今は2歳の娘と家族3人で、私が2歳だった頃と同じ地域に住んでいます。30年前と比較すると自動車の交通量が増え、畑は住宅へと変わり、公園も植栽しないと明らかに植物が減っています。私の頃のようにのびのびと遊ぶには、安全も自

然も足りないように感じています。11月に三富でイベントがあったので娘と一緒に自然の中で遊んできましたが、車を10分走らせれば雑木林があるというのは、まだ恵まれた環境なのかもしれません。

彼女が小学生になる頃、この自然はまだあるのかが気になります。

都市化により得た恩恵も大きいと思いますが、失ったものも多いと感じています。雑木林は自然とふれあう機会提供はもちろん、ヒートアイランド現象の緩和や動植物・生態系の保護など多くの役割を担っています。

まちづくりや開発は便利さと自然環境のバランスをしっかりとみて計画・実行していくことが、これからさらに重要になっていくと、今回の講演に参加して思いました。



上田マリノさん☆ラジオやイベントへの出演や雑誌への連載などを通して、環境に関することの啓発を行い活躍。

「プラスチックごみ削減に向けた取り組み」

資源循環推進課

「死んだクジラの胃から100枚近くのレジ袋が見つかった」「有名コーヒーチェーン店がプラスチックストローを廃止する」「日本国内で発生したプラスチックごみを中国が受け入れ禁止した」など、最近プラスチックごみに関するニュースを目にすることが増えてきました。

海のプラスチックごみ問題とは、人間が出したプラスチックごみが、大量に海を漂っているというものです。海の生物に影響を与えるだけでなく、波や紫外線によって小さく砕かれたごみが、魚介類を通じて、人間の健康に影響を及ぼすことが懸念されています。

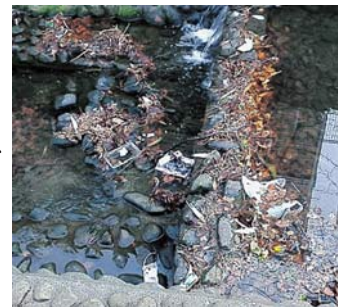
また、これまで日本のプラスチックごみの一部は、中国などが貴重な資源として国策で受入、リサイクルをしてきました。しかし、環境保全を理由に輸入を禁止する国が増え、日本国内でごみが滞留し始めています。

こうした事態を受け、昨年12月20日、藤本市長は、マチごと、プラスチックごみ削減に

取り組むことを宣言しました。「マチごとエコタウン」の精神に基づき、避けられるプラスチック使用を控えプラスチックごみの発生を抑制すること、捨てる場合にはしっかり分別し適正に処理することを、市民の皆様は今一度、強く訴えてまいります。

まずは市役所職員から、会議ではペットボトルではなくコップで飲み物をお出しするなど、取り組みを始めています。今年で38年目を迎える「環境美化の日」や市内を流れる川の清掃活動も、所沢市から海にプラスチックごみを流さない、大切な取組です。

これまでと同様ご協力いただくとともに、プラスチックごみ削減に向けたアイデアがございましたら、ぜひお寄せ下さい。



写真：東川

“食品ロス廃棄削減問題の解決の貢献”

柳瀬地区 早川 義雄

平成30年12月6日～8日東京ビックサイトでエコプロ2018が開催されました。

所沢市環境推進員連絡協議会では、研修の一環として今年も各地区から環境推進員36名が参加しました。私は、30年以上食品メーカーに勤務していることから、家庭の食品廃棄はもちろん食品メーカーの食料ロス・廃棄等の環境問題に関心があります。従来、食品卸・食品製造・物流・小売りといった需要予測が単一の従来方式や規則性の発見、天候など条件の変わるデータを分析するのが困難でした。しかし、AI（人工知能）の技術をベース（需給最適化プラットフォーム）にした複数の規則性をパターン化することで自動での選択予測の裏づけを確認する事が可能になったとの事です。2018年7月から、大手メーカーや小売業、団体等で拡大普及予定となっており、今後食品ロス廃棄の削減に繋がれることを期待しています。



編 集 後 記

今年の年末年始はごみ収集が1週間近くない地域があり、特にプラスチックの年始最初の収集日はごみ集積所には溢れんばかりの状況でした。このプラスチックは連日新聞報道で絶えないプラごみの主役です。埼玉県は海なし県だが、河川を通じて海に繋がっている。3R（Reduce・Reuse・Recycle）の推進がこの問題の解決の大きな基本です。所沢市が全国815市区SDG's先進度調査の環境分野で全国1位となり（日経グローバル調査）、2019年度から始まる所沢市マチごとエコタウン推進計画実施に弾みがつきました。

編集委員（◎印は委員長）

◎宮高 隆（並木）、久下 紀世（新所沢）、新居 亨一（山口）

事務局：所沢市 環境クリーン部 生活環境課

☎04-2998-9370

所沢市のホームページ

<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/>

トップページ⇒暮らし⇒環境・みどり

⇒生活環境⇒環境推進員連絡協議会についてを選択してアクセスしてください。